



TOHOKU
UNIVERSITY

研究教育のためのクラウド利活用セミナー「大学DX勉強会」

東北大学 クラウド活用事例

国立大学法人 東北大学

2023年3月10日(金)

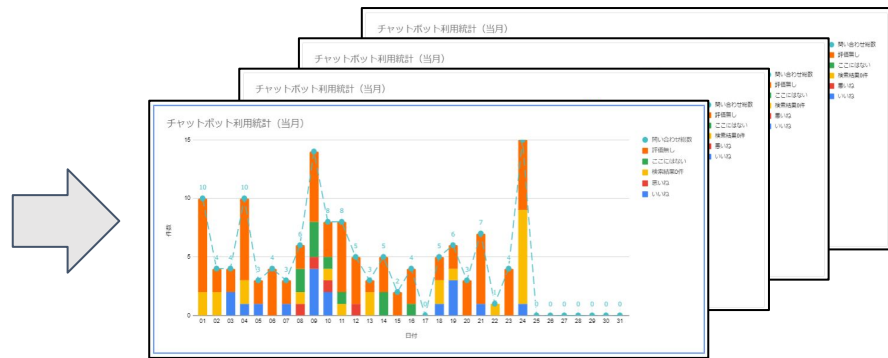


2021年		2022年	
上期	下期	上期	下期
<p>★<u>3月29日</u></p> <p>全学HPにチャットボットを導入(教職員、学生、一般の方全ての質問に対応可能なチャットボット)</p>	<p>★<u>12月1日</u></p> <p>公式キャラクター(HAGIBO)決定</p>	<p>★<u>2月1日</u></p> <p>部局・部署専用チャットボット稼働開始(利用希望に応じて機能を開放)</p>	<p>★<u>9月12日</u></p> <p>業務マニュアル・システムFAQチャットボット(グループウェアチャットボット)の運用開始</p>

マイクロチャットボットの展開



14台のチャットボットが稼働



各チャットボットの日次データの分析・提供

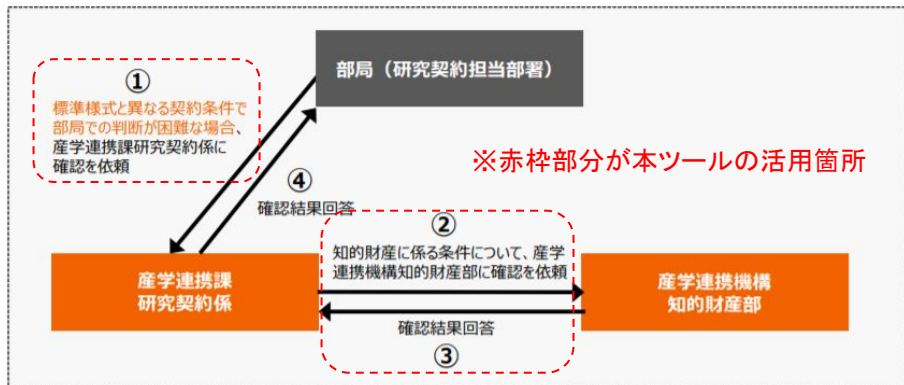


AI契約書レビューサービスの活用

本ツールによって効率化される業務

I : 本部契約書確認業務

→本ツールの活用箇所は下図のとおり



II : 学内規程整備業務

本ツール利用フロー

1. 契約書アップロード



2. AIによるレビュー



学習データ

- ・最新法令
- ※法改正にも随時対応
- ・過去に本学がアップロードした契約書データ
- など



4. 契約書反映の判断



3. 確認結果出力

出力機能

- ・契約リスクの提示
- ・過去の契約書との差分
- ・本学ひな形契約書との差分
- ・LegalForce内の契約書ひな形との差分
- ・英文対応
- ・Word連携
- ・キーワード検索
- など

2022年度活用実績

比較件数: **1136件**(比較: 確認対象契約書と学内の過去の契約書との差分検証)

レビュー件数: **43件**(レビュー: 確認対象契約書とLegalForce内に作成されているひな形との差分検証)

※まずは「比較」で確認し、これまでの業務経験にないものは「レビュー」にて確認することで高度な業務にも対応可能となった



チャットボット公式キャラクター公募表彰式



<https://youtu.be/aiksfO2cn4k>

学内DX展示場



<https://s.door.ntt/RAQzYBr>

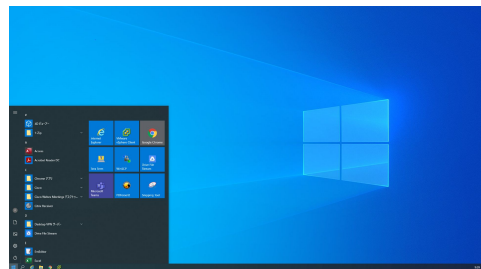
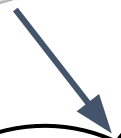
- ◆NTTコノキューが提供する仮想空間プラットフォームDOORを活用
- ◆学内のイベントや常設展示ブースを内製
- ◆就活イベント等の学生向けイベントでの活用を現在検討中



職場



自宅等



仮想クライアント(DaaS)



iDEA Desktop Cloud

仮想クライアント(iDEA Desktop Cloud)

いつでも・どこからでも利用が可能なWindowsの仮想デスクトップのクラウドサービス

令和3年8月より運用を開始し、利用者数は約1,650名。

Microsoft OfficeやWindowsにのみ対応する基幹業務システムの利用を可能とした。接続元となる端末はWindowsOS,MacOS,chromeOSの端末に対応しており、どのような端末からでも利用が可能である。接続元の端末には一切データが残らないため、利用者は意識することなくセキュリティの高い業務環境を利用することができる。

本学ではchromebook1,238台と組合せて利用しており、これにより仮想クライアントが苦手とするオンライン会議への対応やメンテナンス時における業務影響の最小化を実現。



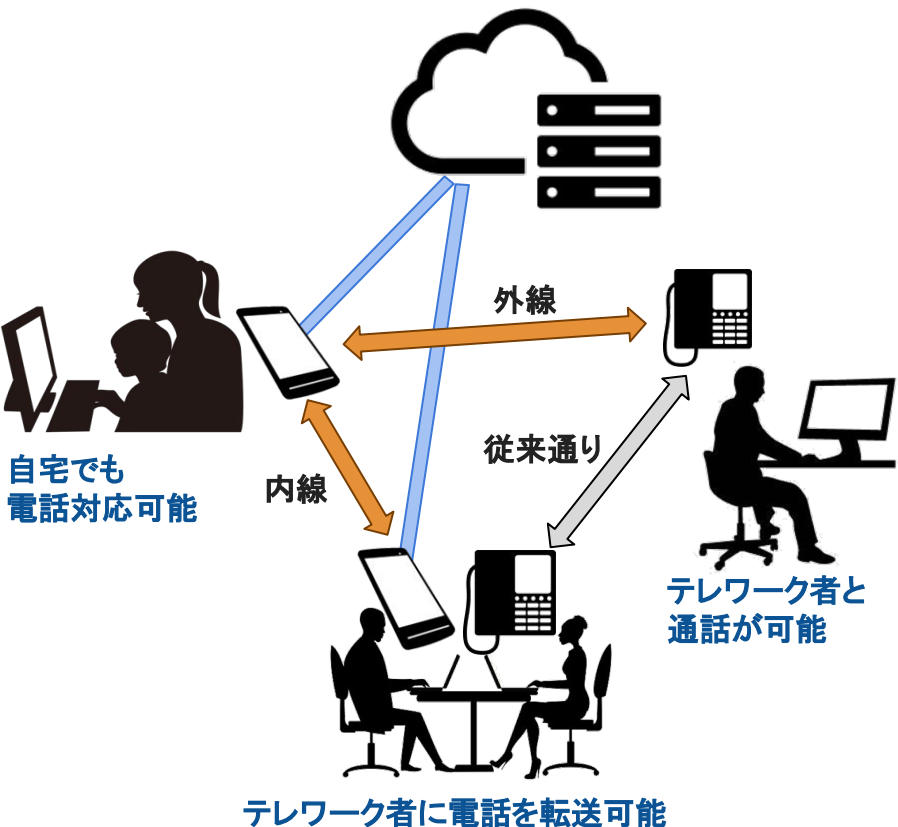
TOHK talk

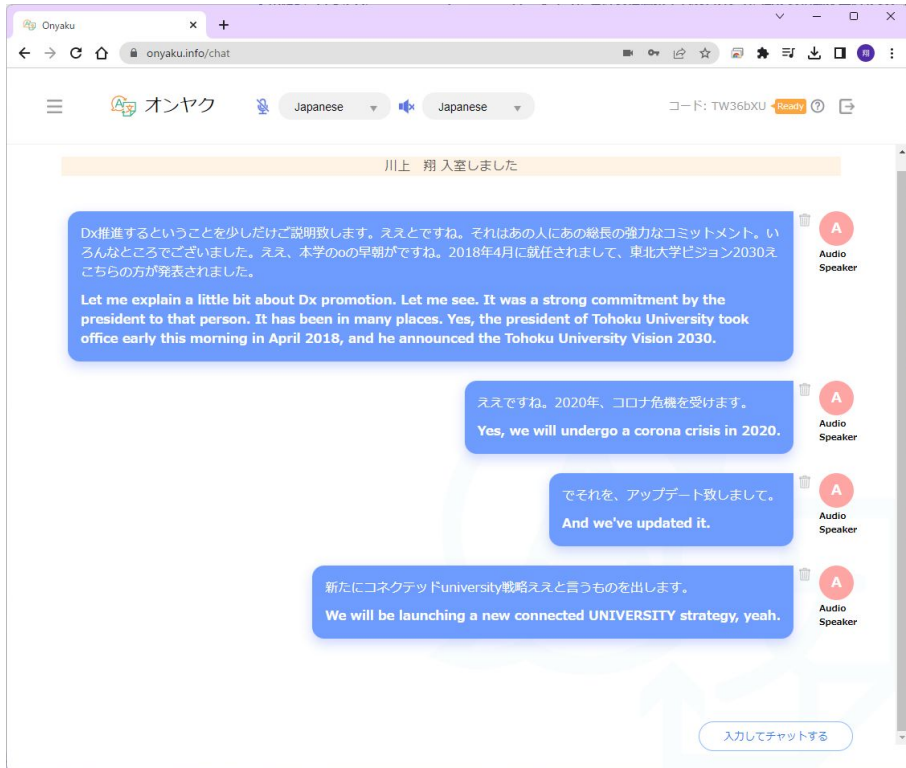
クラウドPBX(TOHK talk)

クラウドPBXとは、構内に設置していたPBX(Private Branch eXchange:構内交換機)をクラウド化し、インターネット上で通話・通信を行うことで、従来の電話環境を改善することができるクラウドサービス。

令和4年4月より運用を開始し、利用者数は約350名。

スマートフォンにクラウドPBXを利用する専用アプリをインストールすることで、出勤者・在宅勤務者が同様に電話対応が可能となる。





翻訳・議事録作成ツール(オンヤク)

打ち合わせ時に通訳者がいなくても、Web会議システムと同時に利用することで、リアルタイムで参加者の音声を表示・翻訳することができるクラウドサービス。

令和4年8月より運用開始し、利用者数は約220名。

令和4年12月14日のAXIES全体会基調講演においても発表者の同時通訳に活用した。





sansan

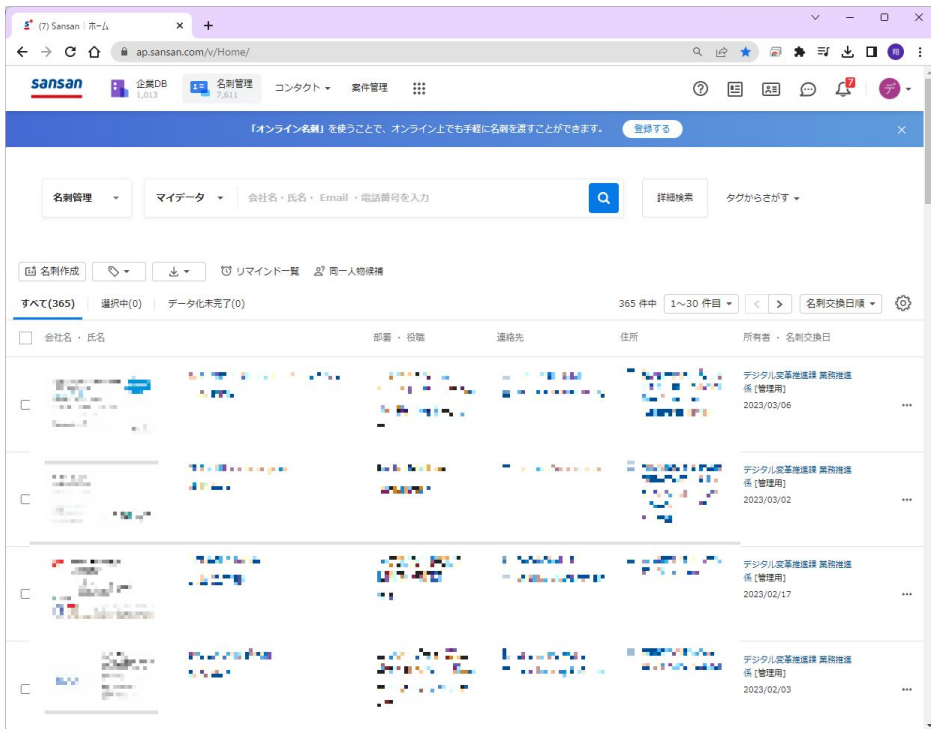
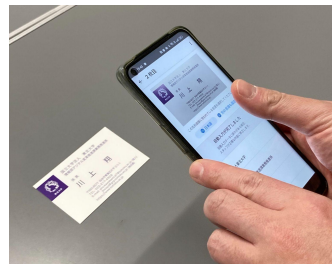
名刺管理ツール(sansan)

名刺の券面を読み取り、名刺データの管理ができるクラウドサービス。

令和4年8月より運用開始し、利用者数は約30名。

現在、読み取りデータの総数は7,611名分。
蓄積したデータを用いて、本学との利害関係者に向けて、メルマガの送付やイベント参加の案内等、本学の取り組みをPRするための施策につなげていく。

専用スキャナやスマホを使って簡単に名刺読取が可能。



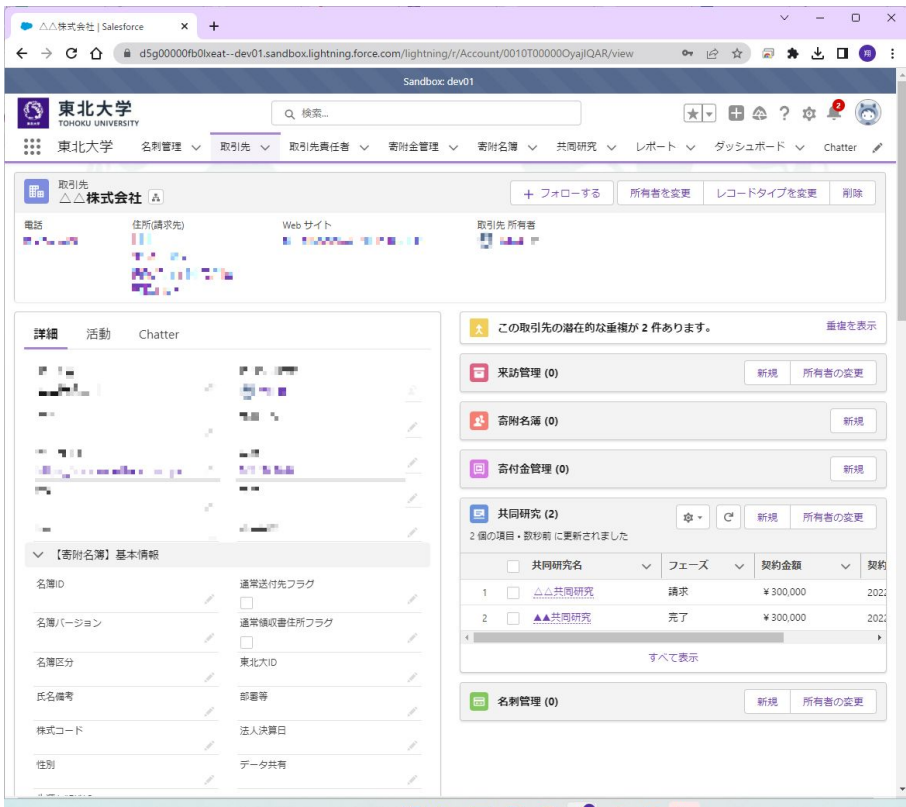


顧客管理システム (Salesforce)

データを蓄積するための基盤システムであり、顧客情報や商談などの様々なデータを管理することができるクラウドサービス。

現在構築中。

本学における基金・寄附に係る寄附者管理システムや sansan と連携し、データを一元管理。
蓄積されたデータを活用し、本学の利害関係者との関係性をレポートで可視化することが可能となる。





東北大学は、New Normal時代における新たな大学の姿を先導し、学生・教職員が、今まで以上に学業や教育・研究活動に専念できる場をこれからも提供して参ります。

ご意見・ご感想・ミーティング依頼等はお気軽に[こちら](#)よりご連絡ください。

東北大学のDXに関する最新情報は[Web](#)でご覧ください。

東北大学 DX

🔍 検索

